

第3回 異分野融合セミナー

2019年12月9日（月） 16:00-17:00 @15番講義室

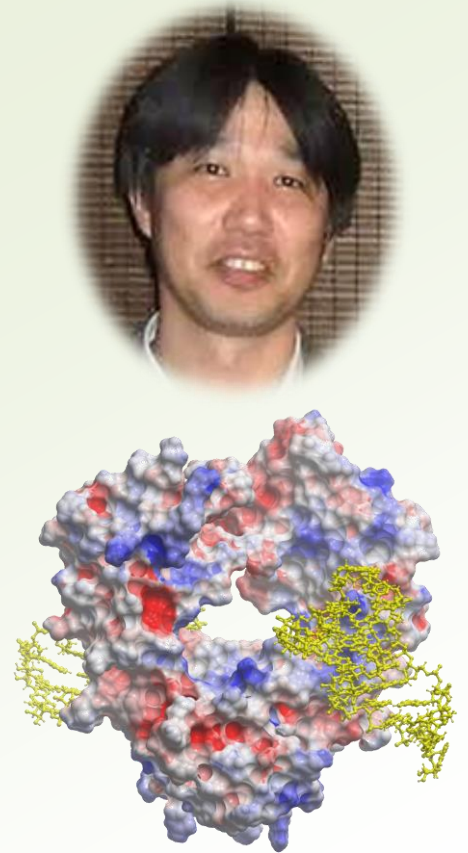
アプタマー医薬品の立体構造と特徴

千葉工業大学 先進工学部 生命科学科・教授

坂本 泰一 先生

近年、様々な抗体医薬品が開発され、70品目以上が承認され使用されているが、核酸医薬品も次世代型分子標的薬として開発が進められ、約10品目が承認されている。核酸医薬品の中でも、タンパク質を標的としたものはアプタマーとよばれ、試験管内人工進化法（SELEX法）とよばれる方法により作製される。アプタマーは、標的タンパク質に非常に強く特異的に結合することから核酸抗体ともよばれ、標的タンパク質に結合することによってその機能を阻害する。

私は、20年ほど前からNMRを用いてRNAの構造生物学的研究を行ってきたが、アプタマーに興味を持ち、アプタマーが標的タンパク質に結合するメカニズムを明らかにしてきた。本セミナーでは、物理化学的な視点からのアプタマー医薬品の特徴について話をしたい。



問い合わせ先：高谷 智英 ttakaya@shinshu-u.ac.jp